



Title	公衆衛生の原点に：枚方市保健所長に就任して
Author(s)	白井, 千香
Citation	大阪公衆衛生. 2018, 89, p. 27-28
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78674
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

公衆衛生の原点に一枚方市保健所長に就任してー

白井 千香

枚方市保健所長

「はじめまして、枚方市保健所長です」

昨年4月から、何やらくすぐったいような挨拶をしながら、保健所長一年生が過ぎようとしています。実は、大阪の公衆衛生にはようやく辿り着きましたので、その経過を書き留めたいと思います。

前職は神戸市保健福祉局・神戸市保健所・保健センターなどを25年間勤めましたが、その前は2年ほどのブランクがあり、公衆衛生医師のスタートは東京都衛生局でした。当時も公衆衛生医師は多くはない中で、同期や職場、組合関係などで公衆衛生を語る勉強会があって、顔を出したり全国レベルの「いきいき公衆衛生の会」に参加して仲間に入れてもらって「ゼロ次予防」について分担執筆したり、東京医科歯科大学公衆衛生学教室の専攻生の立場で『中小企業の職域の健康課題に保健所がどう関わるか』というテーマ（演題は忘れました…）で初めて日本公衆衛生学会で発表したりしました。結婚、転居で東京都を退職することになり、その頃、大阪府の笹井康典先生から声をかけていただいたことから、次の職場を考えるうえで一度、大阪府庁に挨拶に行き、偉い先生に面談していただいたのが、大阪の公衆衛生とのご縁の始まりです。

しかし出産、子育て、転居続きで、2年間のブランクは主婦としてそれなりに忙しく、子育てを掛け持ちして神戸市に入ったのが運のつきでした。エイズや結核対策、阪神淡路大震災という大規模災害や新型インフルエンザなどの健康危機事象に遭遇して貴重な体験から公衆衛生マインドを現場で学びました。2009年の新型インフルエンザ騒動では、大阪府と神戸市で既に高校での集団発生が起こっていましたから、厚生労働省に大阪府と神戸市で同時に「運用指針の見直しを！」と真夜中の電話で直談判しました。また大阪大学大学院医学系研究科で公衆衛生修士の社会人コースを40の手習いで学んでいましたので新型インフルエンザ騒動と社会経済的影響などの関連をテーマに修士論文を書きました。当時は予防衛生課長という立場で予算や議会対応もそれなりに興味を持って臨んでいました。

ただし、大都市では、管轄の人口規模が大きいことや都市部ならではの医療や福祉は民間の社会資源に任せがちで、特に政令市型の保健所では、保健や予防の役割が市役所内で優先されていないこと、取り組むボリュームが大きすぎて現状が把握できず、昇格してもラインに入っていないと情報も取りにくいことなどに悩まされました。

公衆衛生医師として保健所長はいずれ経験してみたいと思っていましたので、「枚方市保健所長」には望んで就任させていただきました。何かと経験してきた年齢なのでベテランの域になってしまいましたが、この「大阪公衆衛生」には歴代の諸先輩方が記事や投稿を重ねる中、言葉を選ばないといけなのでは…とおそろおそろ緊張感をもって書いています。

中核市には市町村業務と県からの権限移譲を経た保健所事業を幅広く対応できる魅力を感じています。また職員は若手が多く頑張っている印象は新鮮でした。市町村業務は東京都23区や政令指定都市で経験したので、具体的な業務内容に戸惑うことはありませんでしたが、前職で埋没しそうになっていた保健所機能の原点を枚方市で確認し、職員とともに「マイカタ」とは言わせないよう、全国発信していきたいと思います。

保健所長になって市の業務以外に、全国レベルの仕事をいただいていることも「もう少し働け」という天の声かもしれません。健康危機管理として災害時の公衆衛生活動に力を発揮できる人材養成などの地域保健総合推進事業や厚生労働科学研究費補助金事業に関わらせていただいています。災害や感染症対策は公衆衛生の原点として、代理が難しい重要な会議には市議会に優先して参加させていただいたこともあります。

市職員として部長職でもあり、保健所長第一号としては重い任務と心得、一年生、二年生とは言ってもらえません。幸いに、保健所および保健センターのスタッフや市役所の各部署の皆様には親切にいただき、他市からの転入者を快く受け入れていただいていることはありがたい限りです。三師会や病院協会、訪問看護ステーションなどの医療関連団体とは、従来よい関係にあり大学も複

数あることから、それぞれが連携して行われる「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」が、市の健康医療施策を地域でバックアップしてくれているところです。

家族からは「大阪に移ったら飲み会が増えたなあ」といわれつつ、大阪の経済は飲食業界で支えていることも実感しています。子育てもほぼ終わったので、ワークライフバランスの一例に淀川河川敷を走ることもできました。



中核市の先輩として高槻市、豊中市、東大阪市にはこれからも教えていただくことが多いと思いますが、八尾市、寝屋川市、吹田市も中核市移行が順次予定されているので、中核市どうしの連携のみならず、大阪府庁や府の保健所との連携をより意識して、保健所が住民にとってより近く、縁の下の土台として頼りになり、役に立つ存在であり続けることをめざして、公衆衛生に携わるモチベーションを職員とともに維持増進していきたいと思っています。



ひこぼしくん（枚方市産業振興キャラクター）